



はな号の



題字 瑞龍寺 起龍軒老大師

第46号

令和3年7月20日

発行:臨濟宗妙心寺派

北海道教区

人存牛忘

講七第



令和三年度花園会推進テーマ

おかげさまの心

わたしのなかの仏

—無位の真人—

十牛図 第七講 「忘牛存人」

札幌市 瑞龍寺 起龍軒老大師

「忍辱こそ最上の行

苦しさをたえ忍ぶこそ

—この上もなき涅槃なり」

—法句經二七六

昨年来より、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し続け、今年に入って、更にウイルスが変異株となって、ここ全道にも猛威を振るっております。

全国中人々は巣ごもりを強いられ、日常生活、仕事に大変な不便、困苦の毎日が続いています。皆、不安と心労で心と体に不調をきたしております。政治、経済、医療の効力でもいまだ収束できない状況であります。

当山の毎日坐禅後のお経は「延命十句観音經」を唱えます。「観世音・南無仏・与仏有因・与仏有縁・仏法僧縁・常楽我淨・朝念観世音・暮念観世音・念念從心起・念念不離心」を七回一心不乱に念じます。これは心と体の全集中法と云って、心身を整えるのに最高の氣力を発揮します。

この法句經の名目は、このお経を「行ずる」ことによって努力が報われ、今、ここに、新しく、清々しいもうひとりの自分が現われてきます。自分はひとりではなくなります。

「ごあいさつ」

北海道教区宗務所長
室蘭市 法眼寺住職 船場一讓

教区寺院諸大徳に於かれましては、ご健勝にて日々檀信徒皆様への教化布教にご精進の事お喜び申し上げます。また、ご寺庭ならびに花園会会員の皆様に日頃より花園会活動にご理解とご尽力をいただき心より厚くお礼申し上げます。昨年はコロナウイルス感染症のために春期巡教を始めとして教区、各部内のほとんどの花園会活動が中止となり花園会役員、花園会会員の皆様にはご心配とご不安をおかけ致しましたこと心よりお詫び申し上げます。

私たちの日頃の生活を振り返ってみますと、身の回りの状況に囚われ執着したり、今は特にコロナウイルス感染症の蔓延に囚われて右往左往して生きているようにおもわれます。

宇宙へ旅立ち、大自然をも変え、癌をも治療してしまうこの時代に、コロナ感染症によりいとも簡単に人々の生活が怯やかされていることに戸惑っている。私たちが意識が外へ外へと向い求め過ぎることにより、自分自身を見失い迷路をさまよっているかのようである。このような時こそ今一度、おかげさま・ありがとうございます。の念いを強く刻み実践していきたいものです。一日も早くコロナワクチン接種が行き渡り、治療薬が完成いたしますことを祈ります。

「栗原総長退任・野口総長誕生」

北海道教区宗議会議員
霧多布 正宗寺住職 松浦明恭

栗原総長が二期八年の任期を全うし、惜しまれつつ退任されました。これまでのご苦労と功績に、心からの敬意と感謝を申し上げます。

栗原師の退任に伴い、次期総長候補に内局部長二人が推薦され、二十四年ぶりの選挙戦となり、九州西教区・長性寺住職・野口善敬師が当選、新宗務総長に就任されました。

野口師は昭和二十九年生まれ。九州大学卒。花園大学文学部教授。国際禅学研究所所長。本派教学部長と、妙心寺派を背負うに相応しい、高いスキルの持ち主です。

師は、財政と僧侶の資質を最優先課題として、宗務本所のスムーズな移転、機構刷新と財政改革・後継者育成・布教教化の推進を基本政策に掲げています。

私たち教区も野口師の手腕に委ねるだけでなく、これまで以上に人々の苦しみに寄り添い、生きる道標を示し、地域に必要とされるお寺づくりを目指したいと願います。また、花園会員にありましては、生活信条と信心のことはを座右の銘に、子や孫の灯となって頂ければ有り難いと思っています。

「花園会報発刊に当たり」

北海道教区花園会 会長 菅田信博

花園会会員の皆様におかれましては、お元氣でお過ごしのことと思っております。

未だ収まらないコロナウイルス感染症の蔓延、国では色々と予防対策に苦慮しているが、いっこうに収まる気配はありません。今の国民は「笛吹けども踊らず」「我関せず」の世界。

自分は罹らないと思っている。若者ならいざ知れず、高齢者が自粛自宅待機に飽きて、カラオケ教室での感染。あまりにも身勝手な国民の多いこと。戦後の大変な生活の経験も無い世代が国民の大半となった現在仕方が無いのか。

早くコロナウイルスより解放されることを願っている昨今です。そして会員の皆様が感染されないことを祈りますとともに、皆様のご健勝とご活躍を願います。

この寄稿文が発刊されるまでにコロナが終息する事を願います。

シリーズ
こころの
時間

五出の法

岐阜県 蓮華寺 羽賀浩規

十四年前、私が妙心寺教化センターに勤めていた頃、道東花園会の主催する少年少女研修会の講師依頼を受けました。それ以後毎年足を運んでいます。初めての年に出会った小学生五年生の子たちは、研修会の常連メンバー。修学旅行コースに妙心寺を選びお参りに来てくれた事は、今でも嬉しい思い出です。その子たちも立派な社会人になり、中には結婚した子もいるようです。研修会で学んだ事が、皆の生活に活かされるように願っています。

この縁を結んだのが、厚岸・国泰寺の先住職松浦暢道和尚。花園大学在学中に僧侶の根本を学ぶ「花園禅塾」。その時指導を頂いたおかげで、僧侶になる覚悟が出来ました。身体は小さいが堂々とした態度、高らかに笑う顔、お経を読む声は朗々・生活も楽しく厳しく、実にメリハリが有りました。残念にも不慮の事故でこの世を離れましたが、今でも声や顔が思い出されます。

小中学生の子ども相手の研修会でも、暢道和尚から学んだ事が根底にあります。それは学

生時代に経験した毎日の作法「五出」でした。声、息、便、汗、精の五つをしっかりと出すという事。これにより心身は自然に調ってきます。大人のみならずも生活の中で試して欲しいと思います。その姿をみせる事が、子や孫にも伝わっていくように思うのです。

一、声を出す

朝一番、お寺では朝のお勤めが始まります。姿勢を正し、胸を張って腹から声を出してお経を読みます。この腹から出す大きな声で心身ともに目覚めます。元気があから声が出るのではなく、声を出すから元気が出るのです。外へ出かける時は必ず「行ってきます」、帰れば「ただいま」。誰もいなくても、はっきり声に出す。それだけで気持ち良く、元気が出ます。

二、息を出す

坐禅。朝の読経で声を出した後は坐禅の時間。動から静の世界。坐禅の要は、調身・調息・調心。姿勢を正し、何時もより長く、ゆったりと息の出し入れをします。気持ちよさをイメージして、息を吐き・吸うことを繰り返すと、穏やかな時間を味わえます。足を組まなくても、椅子や縁側に腰掛けても良いので、一日一度は静かに坐り、ゆったりと呼吸をしてみましよう。

三、便を出す

排泄は健康のパフォーマンス。排泄を保つために重要なのが、日頃の食事の心得です。

出されたものを静かに、残さずきれいに頂くというのが基本。器は音を立てないよう大切に扱います。そして手を掛けて作られ、目の前に運ばれた食事に選り好みせず、「私の命」を繋

ぐため食事と成った多くの命に感謝して頂きませす。おしゃべりをしながらの食事も楽しいです。でも時には、食事に真剣に向き合うのも良いものです。

四、汗を出す

食事が終わると掃除の時間。自分で使ったものは自分で始末します。便利さを追求する現代では、なるべく汗と労力を使わないという発想が主流。でも、あえて労力を惜しまずにやってみる。雑巾でどこを拭くのか。縦方向か、横方向か。畳か板の間か、場所により雑巾の絞り具合も変える。箒の掃く方向は外なのか内なのか。コンクリート・砂利・苔の上など、その場により掃き方も道具も変える工夫。その面白さに気づく心を育てるのも掃除なのです。

五、精を出す

何事も、混じりの無い心で行なう。「随处に主となれば立処みな真なり」という開祖・臨濟禅師の言葉のように、主体性を保って事に臨めば、そこは「真実の場」になる。逆に言えば「やらされている」のではいつまでも、偽りの場だということ。

扉の開閉は最後まで手を添える、歩く際の足音に気をつける、履物は揃えて脱ぐ、使わぬ時は、つどシャワーを止めるといった、日常の事に最善を尽くして欲しいのです。

これらを全て実践することは難しいですが、いま自分が取り組む物事に、「もう少し丁寧に」をプラスして生活することで、自身と心が調えられていくはず。

◆こんな行事をしています◆

「女性としての花園会活動を考える」

教区花園会女性部 会長 畠山芳枝

葉桜が目に見え鮮やかな季節となり、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度のテーマをいただき、私も教区役員をさせていただいて十年も過ぎ何かお役に立てただろうか・・・と、振り返って見たとき、何らなすことなく馬齢を重ねてしまっただけの様に感じております。

しかし、教区での役員である前に、菩提寺・正法寺女性部の一員として、楽しく様々な活動をいたしております。私達の活動は、寺院内での掃除などの奉仕活動と、少し外に目を向けて「何かお役に立てれば」と始めた社会貢献です。「一個一g」のリングブルとベットボトルのキャップなどを、檀家の皆様にお手伝いいただきながら回収しております。地道な活動ではありますが、おかげさまで、予想を上回る数量が毎年集められております。ちなみにキャップは「開発途上国の子供達へのワクチン」に変わります。

今の私達に出来る事を考えた時、次の世代の方々に私達の活動を通して関心を寄せたいだけだと思っています。

これからも微力ながら精一杯務めて参りますので、皆様にはご理解とご協力を頂きます様に何卒宜しくお願い申し上げます。

また現在コロナウイルス変異型が感染拡大しております。今まで以上に外出時にはソーシャルディスタンスを守り、時節柄異々もご自愛下さいませ。

「コロナ禍における活動について」

教区花園会青壮年部 会長 阿部清光

令和二年二月十二日に本山で青壮年部役員会が開催されて以来、今日まで、新型コロナウイルスの影響により活動が出来ない状況にあります。

令和二年に予定していた鶴居村での研修会なども中止になり、令和三年二月にも本山での青壮年部役員会も中止になりました。

コロナ禍の中での活動は、開催することは不可能ではないと思うが、どうしてもその後の結果、誰かがコロナに感染してしまうことを考えるとどうしても腰が引けてしまいます。

今年度も七月六日から昨年度できなかった、鶴居村での研修会を予定していますが、現状を考えると大変厳しい状況にあるのではないかと思われます。せっかく令和元年度に行った青壮年部の研修会が大いに盛り上がり、さてこれからという段階であったため、残念でなりません。

いつかは、このような状況が落ち行く日が来ると思います。ぜひ、皆さんくれぐれも体に気を付け再会し楽しい日々が送れることを願っています。

「就任ごあいさつ」

教区寺院婦人会 会長
室蘭市 法眼寺 船場美保子

この度、寺院婦人会会長の任を務めることに成りました法眼寺寺院の船場美保子でございます。前会長の大道寺御寺院様には会員一同敬意と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

二十数年前初めて出席しましたとき、寺院婦人としての心得、数珠の持ち方等を教えていただき大変勉強になりました。

故人となりましたが明心寺の寺院様と円明寺寺院様にはいろいろと親切にご指導していただきました。

今私が会長となりその任を果たせるか、不安と緊張とでいっぱいですが諸先輩皆様のご指導ご支援を頂き務めさせていただきます。二年間どうぞ宜しくお願いいたします。

今年もコロナ感染が蔓延しており、研修会が開催できるかどうか厳しい状況ですが、貴重な時間を使い遠方よりお集まりいただきますのでより良い研修と慰安となりますよう企画したいと思っております。

コロナウイルス感染が身近に迫ってまいり寺内、お檀家様のお世話にとご苦労のことと存じますが皆様の健康をお祈りいたします。

No.7 瑞巖寺

われら道産子
臨済宗寺院

寺院名

雑華山 瑞巖寺 二等地一級

宗派名

臨済宗 妙心寺派 (東海派)

所在地

江別市大麻新町十一番一号

現住職

津森 琢道
(道号、琢道 諱名、天山)

寺号公称

昭和四十八年五月

本尊

釈迦牟尼佛

勸請開山

歴住妙心太室文禪師大和尚



在でも様々な需要に対応し、全国二〇%のシェアを誇っています。
瑞巖寺は昭和四十八年に創建され再来年、五十周年を迎えます。また昭和六十二年には札幌市清田区に別院を建立しました。北海道内の寺院と比べてもお寺としての歴史は浅い方です。
年間行事としては盂蘭盆会法要と春秋彼岸法要の他に、札幌別院では毎月定例の坐禅会、写経会、寺庭によるヨガを開催しております(現在はコロナウイルス感染拡大防止の為、休会中)。ありがたいことに、毎月定例行事には檀信徒だけでなく地域住民の方にもご参加いただいております。
札幌別院の境内には大きな達磨大師の石像が二体あります。また本堂天井にも住職津森が描いた達磨大師が飾られています。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

本院のある江別市は札幌市の隣に位置し、札幌駅まで電車で二〇分程の距離にあり、札幌のベッドタウンとして閑静な住宅街が広がります。人口は十二万人程のため二〇〇万人都市の札幌に比べると静かで、少し車を走らせるとのどかな風景が広がります。農業も盛んで、近年は野菜直売所が各所にオープンし、収穫の時期になると地域住民で大いに賑わいます。また、れんが造りの古い建物をリノベーションして、お洒落な商業施設としてオープンしたり、某大型書店が進出したりと活気があります。

もともと江別市は「れんが」の一大生産地で、最盛期の昭和三〇年代には十五社もの工場が操業していました。開拓期から戦前戦後を支えた「れんが」も鉄筋コンクリートの台頭とともに建材としての役割を終えました。そんな「れんが」ですが現

権

付けよう

見音寺 川邊正道

ルギー反応を起こす人もたく強は差別問題に端を發していきまうきらいがあります。

ない人権は、「日常的」に、その事に気付かないでいる事な

。話が上手い人・無口な人・頭手な人・・・etc

いて、「違う役割」を果たして。さもすると、その「役割＝上下」を作ってしまう。家庭で。

籠を作る人」区別と差別の違せん。

人間の尊さに目覚め、自分の」であります。まさに妙心寺気付き、寺として・僧侶とし差別の無い世の中になるよう

自死

『身近な自死問題』～私達にできること～

本派人権擁護推進委員 岐阜東教区 大禪寺 根本紹徹

現代人が抱え込みがちな特有の孤独感。他人には見えない心の病。増加の一方をたどる精神障害者。自死者数。今や世界中で3.2億人を超えるうつ病。日本においては419万人を超える精神疾患患者と世界一多い精神病床数。近年における増加率は非常に高く、特に若者における増加率はさらに高い。

この異常なまでの精神障害者の増加率に対して、緊急な対策が必要であると、社会的コンセンサスがとられている今、私たちにできる事は何なのであろう。近年、心理学や精神医学の進歩により、自己分析や脳の作用などが、より明らかになった。

それによって、対策や療法が進歩し、健全な状態に戻してくれる可能性も増えてきた。

しかしながら、精神疾患患者数が増加の一途をたどるのは、心理学や医療はその後の患者の人生、その先の幸せに生きていく方法や導きについては、治療終了後はほとんど関わることがなく、また同じような状況に後戻りしてしまうことが絶えないからだ。

様々な環境や対人関係、思考の癖などからのトラブルや精神的なストレスにより、脳の機能など障害を受けてしまった方々が、治療や人的支援によって回復した後、価値観や生き方そのものを変えなければ、また同じく逆戻りだ。と言うのである。

いまだに根強く残る「精神病＝異常者」という精神障害者への差別。身も心も耐え難い経験と苦行を重ね、社会や周囲と断絶されてしまった孤独。

そこから、なんとか乗り越えたとする。が、日々元気に生きていける方法は、誰が導いてくれるのであろう。回復後に間もない不安定な状態で独りで探し求めても、立ち戻った同じ環境で、果たして救いの手は見つけられるのだろうか。私たち仏教者は、釈尊の教えに導いて頂き、その心を引き継ぎ、自他共に人間の精神や心について実践を通じて、研究し探求してきた。苦しみを取り除き、精神の安定を与えてくれる仏教的な智慧と生活に帰依している。悩みを抱える者が望むことは、「今以上にストレスを増大させずに、過去の執着や未来の不安にとらわれず、孤独と虚無感から解放してくれる真の意味での救い」で、「いつも安心で自由で新鮮な心で居たい」のだ。万人が望むところでもある。

社会の仕組みが急速に変化し続けるこの困難極まりない現代において、どう生き抜くか。

歴史や仏教という裏打ちがある、普遍的な先人たちの英知にすがりたい。という切実な人々の思いに、各分野の様々な特性を活かし一団となって、一刻も早く具体的に答え、寄り添える場を広めていくべきではないだろうか。

人種

『多様性を受け入れる』

北海道教区人権擁護推進委員 護國寺 河野玄秀

社会ではいま多様性を尊重することへの重要性がますます高まっています。

時代の変化と共にニュースなどでも耳にする機会が増え、日常にも浸透してきた「多様性」とは、海外では「ダイバーシティ」という言葉で表され、性別・国籍・人種・年齢など様々な違いを問わず「多様な人材を認め、活用すること」という意味を持ちます。

加えて価値観や宗教の違い、障がいの有無も受容しどんな人でも平等に生きられる権利を有するという考えです。

海外においては1960年代頃からこの概念は徐々に浸透し定着してきています、日本もこうした多様性の捉え方が進んできているものの、昨今の女性蔑視発言問題や、アイヌ民族への差別的表現問題などの報道を見ると様々な局面においてまだ旧態依然とした価値観が残っているように感じます。

今まで日本人は変わらぬ環境の中で、同じ価値観の人と暮らすことを好んで来ました。

それは時として様々な差別を生む事もありました。

これまではこのような単一の価値観の中でも社会は成り立ってきましたが現在は異なります。

自分自身をとりまく社会に目を向け、あらゆる差別を無くす強い意志を持ちお互いの人権を守ることが、人間の苦悩を除き様々な問題を解消することに繋がってゆくと思います。

そのために本派では生活信条として「人間の尊さにめざめ自分の生活も他人の生活も大切にしましょう」と謳っています。

また「涅槃経」には「一切衆生、悉有仏性」（すべての衆生には悉く仏性があり、誰でも仏になれる）と説いています。

仏性の前には誰もが平等であり、人種・性別・年齢といった限定は何の意味も持ちません。

すべての人々がそれぞれに個性を持ち、それぞれの違いをお互いに認め、活かし合うことが、私たちが今後目指すべき多様なのではないでしょうか。

人

人権感覚を身

人権擁護推進委員

「人権」という文字を見るだけで、さんいるかと思えます。特に人権るので、「面倒なこと」と捉えられ

しかし本当に気を付けなければれも「自分の身の回りで」起こるので。

100人居れば100人の個性がありの良い人悪い人・真面目な人に世渡それぞれがそれぞれのステージいるからこそ世の中が上手く回っ立場」こそ自分であると勘違いしの中で・会社で・学校で・肌の色や「駕籠かごに乗る人、担ぐ人、そのまいははっきりと見て取らなければな

人権の基幹テーマは、生活信条生活も他人の生活も大切にしまし派の僧侶一人一人が身近にある人で「人権の模範」となるよう心掛努力しましょう。

◆こんな行事をしています ～各部の花園会活動～ ◆

「教区第一部より」

北海道教区第一部 宗務支所長

苫小牧市 正法寺住職 中山瑞源

第一部の活動はコロナの影響によりすべて中止となりました。各寺の行事も小規模または中止となっております。法事は自宅で少人数となり遠方の親族は携帯電話でのリモート参加、通夜や葬儀は開始前に随時焼香お参りを済ませ、参列はご家族のみという形となりました。

様々な変化がある中で、変わらずに毎日坐禅会を開催しております瑞龍寺を筆頭に、定期的に開いている各寺にはコロナ禍にも関わらず、多くの方が参加されています。今から約二千五百年前、お釈迦様がお悟りを開かれた心（佛心）をもとめる方、ずっと変わらぬ佛心・自他不二・慈悲心をもとめるきこかけを各寺で数多く催し、平安の輪を広げていきたいものです。

このような時期に心の安定や安らぎを求め、感染対策は万全にしっかりと皆さんの方々がお寺へ足をお運びくださいますようお願いしております。

「コロナ禍にある部内の状況をどう進めるか」

北海道教区第二部 宗務支所長

鷹栖町 田中寺住職 船橋宣裕

教区花園会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年度からのコロナ騒動はなかなか落ち着きを見せず、教区行事また寺院行事にも大変な不便をきたしております。このような中では出来ないことを嘆くよりも、出来ることを探して個々に於いて実践していく事が、何よりも大切になってくるのではと思います。

例えば坐禅をしてみる・写経をしてみる等々、個人で出来ることはたくさんございます。

普段の忙しさに言い訳をしていた自分を反省して、新たな試みをする。大変に良い機会を与えて頂いたという、逆転の発想を持って下さい。

また、本山を中心にウェブの中でも様々な試みをしている最中でありますので、皆様の希望に沿った動画、サイト等も見つけやすくなっていると思います。是非探してみして下さい。見つからないときには菩提寺に連絡を！

「おうち時間の過ごし方」

北海道教区第三部 宗務支所長

帯広市 大乘寺住職 豊田心道

コロナ禍の影響はまだ残っており日々の生活から不安が取り除けたとは言えない状況です。唯一の救いはコロナワクチンの早期接種ですがこれも十分とは言えません。

この様な時世の中で花園会活動を如何に取り組むかご高齢の皆様には一日たりとも無駄な日はございません。花園大学学長様のコメントに「全てが移ろいでゆくと言うのが仏陀の悟られた真理であり今の大変な状況も変わってくるものです。不安に思うよりも今出来る事は何かを考えましょう。希望を失わず足元を見つめて参りましょう」と。

私達の禅宗には坐禅を基本に写経・写仏等があります。遠出が出来ず増えた「おうち時間」に取り組みをお勧めいたします。寺院に清浄な風が吹き渡っています。住職から十分間坐禅を又一言の説法を又寺庭から世間話をいたしませんか。いつでも足をお運び願います。合掌

ちよつとイイ話し ~ Part2 ~



「笑顔のお布施」

東京都 龍雲寺住職 細川 晋輔

皆さんは最近「ホットとしたこと」はありますか？

朝起きて白湯を飲む時であったり、お仕事一段落した時であったり、お風呂で足を伸ばした時であったり。それこそ、日常の些細な場面にも、「ホットとするひととき」は、溢れているように思います。

私たちの人生には、ある日突然、想定外のことばかり起ります。日常を激変させた、このコロナ禍もその一つです。そして、このように閉塞的な毎日を過ごす中で、知らず知らずのうちに私たちの心が、不安やストレスによって固まって身動きがとれなくなってしまうのです。そんな緊張状態の中にこそ必要なものが、さわやかな風を感じるように



な「ホットと一息つく」ひとときなのかもしれません。また、ここで大切なことは「ホットと一息つかせてもらおう」という捉え方であると、私は思うのです。

先日、二歳になる息子を耳鼻科に連れて行き、受付にあるモニター型検温器に顔を写したときのことです。最近はどこに行っても検温が行われるようになりました。私のお寺でもリースで設置し、法事の時などに使っています。お寺にお越しになる皆さんは、そのモニターで自分の体温を確認してください。ある日真夜中に通りかかると、誰もいないのに機械が光っていることもあり、何やら涼しげな風を運んでくれます。

話を戻すと、私に抱きかかえられモニターに顔を写した息子は、まるでカメラを構えられ「はい、チーズ」と言われたかのように、にっこり笑顔になったのです。マスクが日常化して、喋ることなく黙っていることを課せられる今日において、私たちはどこかに笑顔というものを忘れてしまっていたかも知れません。すると、待合室の患者さんたちからは「こんな素敵な笑顔、初めてみたわ」と大絶賛。息子の笑顔によって、一瞬にして和やかな待合室になりました。私は少々大袈裟な褒め言葉に恐縮しながらも、笑顔の大切さにハッとさせられたのです。

この笑顔は、仏教でいうところの布施であったのです。多くの方は布施というと、読経の御礼にお寺にお供えするものと考えがちですが、それは正しい解釈ではありません。布施は、サン



スクリット語「ダーナー」

の漢訳であり「何かを与える行為」という意味です。布施行といわれる修行の一つになるのです。

布施には、骨身を惜しまず人に尽くす「身施（しんせ）」、金品を

布施する「財施（ざいせ）」、読経をしたり教えを説く「法施（ほっせ）」など色々なケースがあります。そして、金品などの資財がなくてもできる、和やかな顔や笑顔、優しい言葉という「無財施（むざいせ）」も忘れてはなりません。感謝や御礼などの見返りを求めない息子の無邪気な笑顔は、私たちにとって「無財施」であったのです。どうしても暗くなってしまいがちな状況にある私たちに、ホットと一息つかせてくれたのです。「一息つく」のではなく「つかせてもらおう」というのが、布施の大切なところなのです。つまり、布施というものは、与える側だけでは成り立たちません。受け取る側の心にも、それだけの余裕が必要になるのです。なかなか先が見えない状況が続きますが、こういう時節だからこそ、胸にある色々な思いを「ホット」吐き出して、明るい笑顔と、それを受け入れることができる心をもって、人生を歩んでいくことが大切であると思います。

「令和二年度寺院役員研修会参加報告」
鶴居村 観音寺花園会長 高橋達雄

十一月十一日新型コロナウィルスのさなか、大本山妙心寺で開催された「寺院役員研修会」に北海道教区・第三部観音寺より住職を含め三名で出席。九時受付・十時より法堂に於いて「法皇忌半齋」。まさか自分が法皇忌半齋に参列御焼香出来るとは思わなかったので感激致しました。でも寒かった。

各所拝観では開山堂を見て回りました。普段は拝観できない場所なのでラッキーでした。昼食後開会式・講師・総務部長、上沼雅龍師による講座「宗門の現状と課題」「責任役員としての役割」等々。コロナのため例年とは違ひ三十六名という少数での研修会でした。

「宗勢について」では、総寺院数三千三百三十八ヶ寺・有住寺院二千二百三十八ヶ寺・兼務寺院一千八十二ヶ寺・代務寺院四ヶ寺・無住寺院十六ヶ寺。一ヶ寺以上で和尚さんが居ない。日本経済新聞では「コロナでお寺のピンチ」法

要見送り、お盆お彼岸の法要が減り寺院の経営圧迫。過疎化や檀家減少にコロナが追打ち。政教分離の原則から公的支援は望めない。専門家は宗派による組織的な支援の必要性を訴える。年収三百万円未満の寺院が四割強を占め、兼業・アルバイトが珍しく無く、将来解散や合併を考へる寺院は二割にのぼる。

例年とは違ひ一日だけの研修でしたが無事終了。私達は終了後、仁和寺・龍安寺の参拝をしました。ご支援を戴いた教区と第三部の皆様

に、心から感謝と御礼を申し上げます。

「欠けたピース」

教化主事 観音寺 川邊正道

ジグソーパズルは何千もの小さなピースによって完成される。だから、ひとつでもピースが足りないと、そのジグソーパズルの「絵」は完成されない。似たような形と色であっても、そのピースは「そこ」の一枚所にしか収まらない。

その一枚のピースはそこに収まってこそ初めて、その世界を完成させるための一枚になる。

私達は「地球」というひとつの絵の中に住んでいる。その絵は止まっているのでは無い。常に動いている。雲は流れ・生死が有り・景色も移り変わっていく。「今」という世界のジグソーパズル。その絵の中に「自分」というピースも動いている。

その場所にしか入ることのない「自分」というピース。夢を追う人も多いが、必ずしも叶うものではない。もしも叶う夢があったとしたら、それはその人の「その場所」。居場所が違うと用を足さぬ。その一枚のピースは、「その場所」でこそ生き生きと光り輝く。自分という色と自分という形がどこに収まるのか。人生は自分探しである。

花園会決算・ご報告

令和2年度 教区花園会会計決算報告

【収入の部】 ーは予算比減 令和2年4月1日～令和3年3月31日

項目	予算	決算	増減	備考
1. 繰越金収入	2,282,439	2,282,439	0	
前期繰越金	2,282,439	2,282,439	0	前年度繰越金
2. 会費収入	2,473,200	2,473,200	0	
会員割当金	2,473,200	2,473,200	0	会員数×¥400 (6,183名)
3. 助成金収入	390,000	383,660	-6,340	
教区推進助成金	110,000	130,000	20,000	前年度分教区推進助成金
研修会旅費補助金	100,000	118,360	18,360	前年度、平和復興寺院役員研・少年少女研等の参加に比例
参拝推進助成金	10,000	10,000	0	
無相教会助成金	70,000	25,300	-44,700	発展拡充大会・講習会等助成金
その他助成金	100,000	100,000	0	
4. 雑収入	361	4,703	4,342	
雑収入	361	4,703	4,342	交流会・地方大会残金/預金利子 他
合計	5,146,000	5,144,002	-1,998	

【支出の部】

項目	予算	決算	増減	備考
1. 事業費	200,000	0	-200,000	
教区花園大会	0	0	0	隔年開催
花園会役員交流会	200,000	0	-200,000	教区支度金として
2. 助成費	1,430,000	830,000	-600,000	
花園会本部寺院役員研修会	180,000	180,000	0	鶴居・観音寺様 (6万×3名)
花園会本部少年少女研修会	240,000	0	-240,000	引率6万+子供3万×6名分
秋期特別布教花園研修会	300,000	300,000	0	10万×各部へ
各部少年少女研修会	0	0	0	第3部に5万円
教区無相教会助成金	250,000	250,000	0	教区無相教会本部への年間活動費
花園会女性部活動助成金	100,000	100,000	0	教区花園会女性部への年間活動費
その他本部研修会	360,000	0	-360,000	
3. 教化費	350,000	347,760	-2,240	
花園会報	350,000	347,760	-2,240	
4. 会議費	600,000	68,600	-531,400	
花園会役員会	600,000	68,600	-531,400	11月
5. 事務通信費	10,000	5,000	-5,000	
通信費	5,000	5,000	0	教化主事へ払切
事務費	5,000	0	-5,000	
6. 雑費	10,000	100	-9,900	
諸雑費	10,000	100	-9,900	振込手数料
7. 予備費	1,546,000	10,000	-1,536,000	
予備費	1,546,000	10,000	-1,536,000	合田智恵様香典
8. 積立金	1,000,000	1,000,000	0	
積立金	1,000,000	1,000,000	0	
合計	5,146,000	2,261,460	-2,884,540	

【収入】-【支出】=繰越金 2,882,542円 財政調整基金現在高報告 1,600,000円

旭川市 教区花園会女性部副会長 合田智恵
令和二年九月二十一日 享年 六十一才 逝去
生前長らく、教区花園会女性部役員として
御活躍されました。ここに教区寺院一同より、
ご冥福をお祈り申し上げます。

おくやみ



HOKKAIDO
Rinzai ZEN

令和3年度 花園会事業計画

令和3年4月1日～令和4年3月31日

年	月	日	事業	会 所	備 考	
令和3年	4	5～6	教区役員会・花園会合同役員会	マイスティーズ札幌	事業報告・決算・事業計画・予算	
		～	春季定期巡教	全道	1・2部月日～ 3部月日～	
	7	6～7	北海道教区花園会交流会	鶴居PGC	PG・スリーA・晩食・座談会	
		13～14	全国花園会会長会	本山	会長・菅田信博	
		29～31	少年少女研修会	正宗寺	坐禪・写経・法話・地域研修	
	9	1～2	無相教会発展拡充大会	帯広市内	御詠歌講習・奉詠・桂田先生の歓送会	
		10	19	2部秋季特別布教/花園研修会	洪岳寺	講師
			20	1部秋季特別布教/花園研修会	瑞龍寺	同上・会議 (21日移動・釧路泊)
			22	3部秋季特別布教/花園研修会	釧路市内ホテル	幹事・正宗寺
		19～21	無相教会全国大会	高知県	御詠歌講習・奉詠	
11		平和復興の祈り	本山			
	10～11	花園会寺院役員研修会	本山	各部より1名		
令和4年	1	18～19	花園会会長会	本山	北海道教区花園会 会長 菅田信博	
		1	花園会女性部会長会	本山	北海道教区花園会 女性部会長 畠山芳枝	
	3	8	花園会青壮年部会長会	本山	北海道教区花園会 青壮年部会長 阿部清光	
		26～28	花園会少年少女研修会	本山	3部寺院より	

※今年度予定の花園大会は中止 (令和4年に予定)

※北海道教区花園会交流会は、コロナウイルスの感染状況に応じて開催か中止を決めます

※上記、灰色で表記される部分に於いては、コロナウイルス拡散防止のため中止

臨濟宗妙心寺派

北海道教区寺庭婦人会総会・研修会

日時…………… 令和3年8月26日 午後3時集合
会場…………… 苫小牧・正法寺（寺庭婦人会）
研修会場…… 白老・ウポポイ（8月27日）
※27日午前研修～昼食後解散となります。

北海道教区寺庭婦人会は、今年度役員改選が行われました。

新任役員は会長 法眼寺・船場美保子さん。副会長 田中寺・船橋幸江さん。
庶務会計 正宗寺・松浦秀子さん。監査 曹溪寺・田中瞳さんです。任期中宜しくお願い致します。

令和三年度寺庭婦人会は「製紙の街・苫小牧」で行われます。また人権研修として「白老・ウポポイの見学。日本は単民族国家では無く、和民族とアイヌ民族の多民族国家であることとしっかりと勉強し、自己研鑽致しましょう。

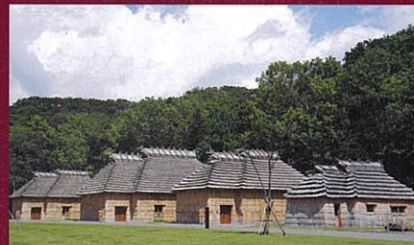


ウポポイ (民族共生象徴空間)

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3



▲国立アイヌ民族博物館
(アヌココロ アイヌ イコロマゲル)



▲伝統的コタン
(テエタカネアンコタン)

提供:公益財団法人 アイヌ民族文化財団

後編 集記

▽北海道教区・
教区花園会の
事業と、各部

内の行事等が止まって一
年半が過ぎた。
▽ワクチンの接種も地域
毎に進み、大規模接種
センターを設けて更に加
速度を増しているよう
です。
▽逆にコロナウイルスも
次々に変異を遂げ、ワ
クチンの効果も期待でき
るかどうかとの話しもち
らほら。
▽万が一ワクチンによっ
て、この状況を脱したと
しても、昔のような生
活に戻るのも微妙であ
る。
▽コロナウイルスが変異
するなら、こちらも次々
と生活状況を変異してい
く必要が有るように感
じます。

(発行人) 船場一護
(編集者) 川邊正道

小畑瑞穂 船橋宣裕